

東京工業大学学長 三島良直著「若者よ 頭の芯が疲れ果てるほど、考えよ」Kuramae Journal 東京工業大学同窓会誌No. 1034、2012、winter 蔵前工業会 2012年12月1日発行を読む

若者よ 頭の芯が疲れ果てるほど、考えよ

いま、東工大はさわやかな風を受けている。

大学を襲った厳しい嵐を乗り越えて、やっと誕生した新学長は「世界最高の理工系大学の実現のための挑戦をしよう！」と呼び掛けている。

教職員、学生、そして同窓生とも力を合わせれば、大きなうねりを起こせるかもしれない。

明るく、温かく、学生思いの、この学長と一緒に、東工大ファミリーの一員として世界最高を目指してみたい。そう思わせる力強さがその眼差しにはある。

今、東工大は生まれ変わるチャンスを迎えている。

1. 世界レベルの人材を輩出することが世界最高の理工系大学への道

(1) Q. まずは学長に就任された今のお気持ちを。

A. ①やはり新学長選任にかかわるこの1年半は東工大にとって厳しいものでしたので、何より大学の中が笑顔で明るくなることを望んでいます。

②東工大の長期目標として「世界最高の理工系総合大学の実現」ということがうたわれています。そんなことが実現できるのかと思われる方もあるでしょうが、東工大は学生も優秀だし、先生方の研究はそれぞれの分野で世界の一線級です。こんなポテンシャルのある大学が教育面も含めて世界のトップクラスを目指すのは当然のことだと思います。胸を張り、一致団結して世界レベルの大学へ向かっている姿勢が、早く見えるようにしたいと思います。

(2) Q. 世界最高の理工系大学というのはどんなイメージなのでしょうか。

A. ①たとえば、有名な MIT や Caltech(カリフォルニア工科大学)と比べてみても、歴史的な建学の精神や成り立ち、大学運営の方法などが全然違うので、それと同じにはなれないし、なろうとしても意味がないと思います。

②東工大だからこそできる、特色ある教育を行い、世界レベルの人材を輩出すること。それこそが一番の目標で、それができれば、立派に世界最高の理工系総合大学であると言えるのだと思います。

(3) Q. なるほど、海外でも通用する立派なグローバル人材を育成することが必要になるのですね。そのためにも、ものづくりだけでなく、ことづくりのようなことを融合して、大きなビジネスにまとめられる力が必要になるのではないのでしょうか。

A. ①そうですね。私はものづくりを超えたものづくりを目指したいと思っています。

②品質の高いものを作るだけでなく、その使われ方や、それが使われるために必要とされる機能まで考えられるエンジニアや科学者でなければいけない。

③そのためには、自分の専門に対する知識が深いのは当たり前の条件で、科学技術的にも幅を持たなくてはならないし、専門以外の異分野の教養も身に付けなければいけな

い。それができれば、東工大からもスティーブ・ジョブズのような人が現れるだろうと思います。

2. 考える姿勢が欠如した日本の若者

- (1)①ところが、日本の若者は、教わるのだという意識が強くて、**頭の芯が疲れ果てるくらいものを考えるという訓練**をしていないと思うのです。たとえば宿題が出ても、考えようとする前に、インターネットで質問に対する答えを探し、何かを見つけたら、すぐそれでレポートを書いてしまって、自分で考えようとしません。そこが問題です。
- ②「インフォメーションはナレッジではない」という言葉があります。知識とは取ってきた情報ではなく、それを自分の中にどう取り込むかです。そのために、私は**ものすごくハードな勉強をさせるべきだ**と思っています。
- ③教員は、どのような教育をすればよいのか必死に考えて、「研究する時間が減ってしまう」と言わずに、まず教育に専念してほしい。毎年同じ講義を繰り返すのではなく、**知識ではなく考え方を試す訓練を施し、学生が確実にレベルアップしていく工夫をして、クリアしなければ単位を取得させない、そういう厳しい教育が必要な時期**になっていると思うのです。
- ④当然、最初は「あの先生の講義はすっげー厳しいらしいから取らないようにしよう」と学生に言われるでしょうが、先生方皆さんがそうなれば、必死にならないと卒業できないという雰囲気ができ上がります。それが、スタートです。そういったハードな勉強なしでは、将来、スティーブ・ジョブズのように「おまえの専門と俺の専門とを融合させて何か大きな絵を描け」と言われても、描けないと思うのです。
- ⑤結局、今の学生の体質は受験勉強の弊害だろうと思います。そこから考えを変える必要があると思うのですが、受験のシステムを変えようとすると大変な作業で、なかなか手を付けられない問題でした。しかし、この6月に文科省の大学改革実行プランが出て、入試制度も含めて教育を大胆に考え直せということになりましたから、日本の教育で今まで触れられなかったものに触れるチャンスが、今来ているような気がするのです。

(2)Q. 今、新学長に就いて、追い風が来ていますから。

- A. ①そう、台風一過で、確かに風が吹いてきているので、大学改革を今やれば、きっと今までにない大きな動きができると思っています。
- ②学生と教職員の両方が、**自分たちは世界最高レベルの東工大の一員なのだ**ということをしっかり自覚して、思いきり新しいことにチャレンジしていきたい。ということで私がつくったキャッチフレーズが、「**自覚と熱意を持って、挑戦し続ける大学へ**」なのです。

3. “Spirit! Enthusiasm! Confidence!”

- (1)Q. 新しいキャッチフレーズの「**自覚・熱意・挑戦**」を“**Spirit Enthusiasm Confidence**”とされていますね。「**挑戦**」をこう訳すのかと感心したのですが。
- A. そうなのです。これには工夫がありまして、**students should have spirit**とか**students should have enthusiasm**とは言えるのですが、**students should have challenge**とは言えない。英語にしたときにその三つが並ばないのですよ。それでコンフィデンスがいいのではないかということになりました。私は必ずしも日本語と英語が一对一に対応していません。

てもいいと思うのです。思いっきりシンプルな言葉なのだけれども、自覚って何だろうとか考えていくと、いろいろな取り方があります。学生や教職員にこの 3 つを持ってと訴えることもできるし、**自覚と熱意と挑戦の気持ちを持って留学する**ように言えます。何をやるときでもこの気持ちは生きると思っています。この三つをもって自信を持って行動してほしい。

Make up your mind. Go for it.

P4 ~ 6

[コメント]

有賀学長を引き継いだ東京工業大学の三島新学長の考えは、日本の未来を開くものだ。頭の芯が疲れ果てるほど考える。人生において何度かは机にかじりついてでも勉強する時期を持つことが大切だ。

— 2012年11月9日林 明夫記 —